

白川郷の合掌造り



第 26 号

令和6年3月31日

発行 (一)世界遺産白川郷
合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3

「茅刈業界のパイオニア」

黒木 雄太さん (39歳)

財団(山田雅彦)がインタビュし、合掌造り保全、茅に対する熱い想いを伺いました！



―茅に関わった原点は？―

中学校の茅刈体験での体験が初めて。村外で就職後、Uターンして、村内の結に参加したとき、和田茂さんに村内産は1割ほどだということを教えていただいた。茅はもちらんすべて白川村産だと思っていただけに、このときの驚きは鮮明に記憶している。その後、財団の研修で、御殿場の茅場を見学する機会があり、壮大なスケールの茅場を見た時に「よし！俺、茅刈を仕事としてやってみよう」

と鮮烈に決意した。

その後、かややね技術舎にご縁をいただき、屋根の上で屋根葺きの仕事を実際にやってみると、片切に適した茅が少なく、それならば「自分がそれを作る立場になって必要な人に提供したい！」と一念発起した。

―目標としている先輩は？―



読売新聞社 提供

和田茂さん・屋根葺きを仕事にしたいという発想をそれで終わらせず実現された方で、薄れゆく文化を守っていくという気概に、今でもなお刺激を受けている。

野谷信二さん・かややね技術舎の第一期生で、しっかりと教えてくれたり叱ってくださ

るし、いろいろ気づかせてくださることに感謝している。他にも、御殿場で一緒に作業していただいた川田晋也さんや、立場は違えど自分の背中を押してくれた和田真樹君や原田隆介君など同志や仲間たちに、感謝とともに尊敬もしている。

―御殿場と今後どのように？―

かかわっていききたいか？大先輩方が、御殿場と良好な関係を築き上げてこられたおかげで、今とてもスムーズに作業させてもらっている。今回の茅刈機を運んだ作業にあたって、村の皆さんからも多数の応援をいただき、御殿場の富士勇和産業の皆さんにも多くのご協力をいただいた。今回は試験的な刈り取りで、決して大成功だったとは言えないが、それでも4tトラック満載で6台分の茅を刈り取ることができ、本当に感謝している。試行を通じて、茅場の選定、ルート確保、茅の積載方法、作業手順など改善点がたくさん見えたので、しっかりと対策を練って次回に臨んでいきたい。

今後については、村の茅の確保状況をみて、不足する事態であれば村への安定供給のため、調達に向かいたい。天候に左右されて茅の生育にも影響が出やすいなどギャップのような側面もあるが、大事な仕事として子供にかっこいい背中を見せていきたい。



御殿場の茅場にて

―白川村の茅刈についてはどんな想いがあるか？―

「白川村産の茅」というのも絶対に必要なもので重要だと思っている。まだ雑草がたくさん混ざるなど課題は多いが、手をかけ守り続けるなかで、いづれ良質な茅が安定して採れるようになれば一番いい。村が整備してくださった茅場を大事に育てていきたい。また、村内には今でも自分の茅場で茅を刈り、その茅で自分の合掌造りの棟つつみや差茅など手入れをされる方もいる。昔ながらのこうした営みを大事にする人にも、もっと手厚い支援があると、人の意識はだいぶ変わっていくと思う。少しでもみんなの意識が変わって、茅場を守る人、刈る人、もともと増えればいいな。それから、もっと荻町の人に馬狩など村の茅場に出かけ刈り取ってもらえるようになる

るといいなと思う。家族で遊園地に行くくらいのもりで茅場に気軽に出かけ、大人が茅を刈る姿を見せたり、子供たちも茅にふれあうことが自然な状態になるのがいいな。

―村でどんな存在になりたいか―
ありがたいことに屋根葺き職人と、茅刈の両方の職に携わってきた。その利を生かして、村に恩返ししていきたい。

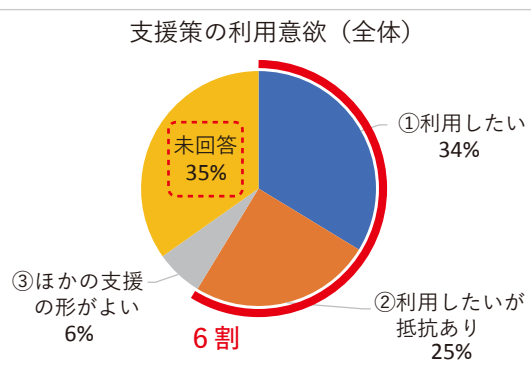
―読者の皆さんにメッセージを―
形あるものを守ることでより、目に見えないものを守ることのほうが難しい。先人から今に至るまで、みんなが守ってきた結というのは、自分のところだけでは到底無理な屋根葺きの負担を、地域の人で分担して助け合うなかで実現しようとした知恵と工夫の結晶だと思う。だからこそ、昔のひとたちの結びつき、特に親戚同士や合掌所有者など、地域の結びつきは本当に強かったんだろう。こうした結が残っていてこそ、その世界遺産白川郷だと思う。茅の貸し借りや、毎年の茅刈など、茅場を守っていく文化に対して、少しずつみんなが意識を変えていくといいな。自分の子や地域の子たちが将来「茅刈に行こうよ！」「私は将来、茅にかかわる仕事になりたい」と普段から口にする子がいる白川郷になることを願っている。

今後の世界遺産白川郷を背負う若者の取組に注目です。熱いエールをお願いします！

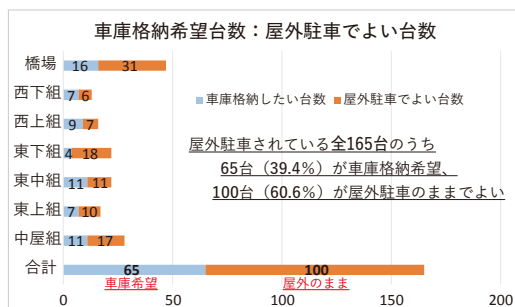
共同車庫の整備に向けた取り組み

荻町区と守る会と財団では、村教育委員会等とともに、空家対策や共同車庫の整備に向けた議論を重ねています。村議会世界遺産保存対策特別委員会からも伝建保存地区における危険空家（家屋・倉庫）の除去と、共同車庫の整備に向けた検討を進めることについて令和5年春に提言もあったことから、財団では共同車庫の整備に対する住民ニーズを把握するためにアンケートを実施し、結果について11月に座談会を開催し意見を聴取しました。

この結果、現状少なくとも165台の屋外駐車があり、そのうち車庫があれば格納したい車は65台、残る100台は屋外駐車のままでよいと感じている実態が明らかになりました。この他、座談会では「頻繁に使う車は近くに置きたいが、あまり使わない車は離れた場所でも良い」、「財団が土地を工面し、利用希望者を募り共同車庫を建築する支援策では、相続の問題が生じるため賃貸料を徴収する方策の方が良いのではないか」、「集落景観の課題は、かつての家の建て詰まりから、空家・空地の歯抜けによるスポンジ（低密度）化へと変化している。空家や空地（宅地に限る）に個人の車庫や住宅を建てられる方策も今後検討する必要があるのではないか」、「営業車両なども昼間多く見られる。集落内住民の所有車両だけでなく、そうした集落外から昼間に行き来する車両についても景観上の配慮を求めべきではないか」、「荻町集落内から完全に屋外駐車をなくすることはできないが、少しでも減らせられるよう継続して取り組むべき」といった意見が聞かれました。



車庫格納のニーズ



家の建て詰まりから、空家・空地の歯抜けによるスポンジ（低密度）化へと変化している。空家や空地（宅地に限る）に個人の車庫や住宅を建てられる方策も今後検討する必要があるのではないか」、「営業車両なども昼間多く見られる。集落内住民の所有車両だけでなく、そうした集落外から昼間に行き来する車両についても景観上の配慮を求めべきではないか」、「荻町集落内から完全に屋外駐車をなくすることはできないが、少しでも減らせられるよう継続して取り組むべき」といった意見が聞かれました。

財団では、今後も、共同車庫の整備について、建物取り壊し後の空地や現状景観を阻害している未使用状態の建物が建つ敷地等を共同車庫建設候補地として選定し、住民ニーズの把握に努めながら共同車庫整備に向けた検討を進めていきます。

コロナ禍明け入込増加、次年度に高まる期待

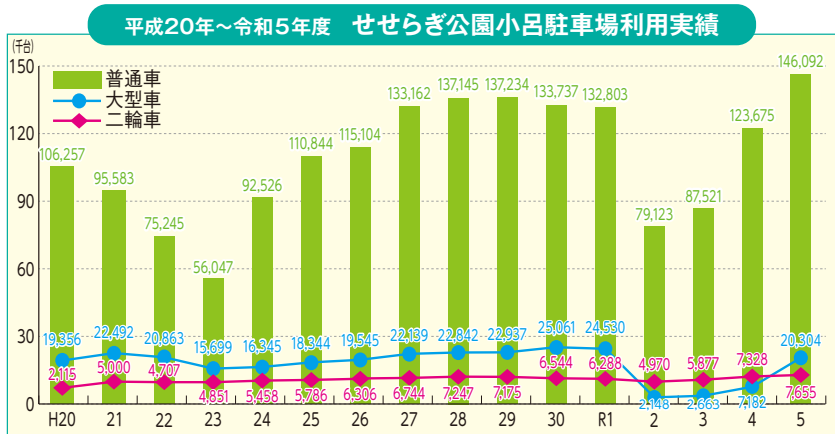
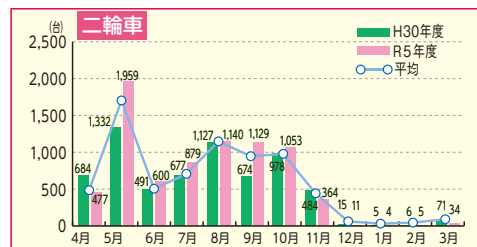
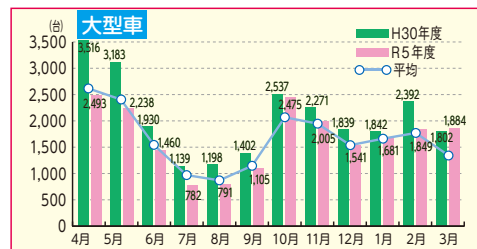
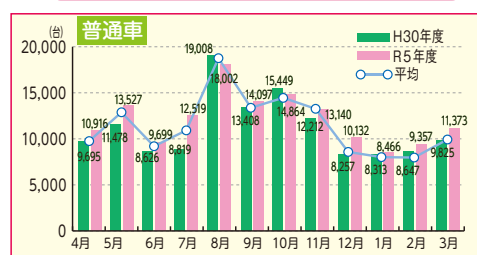
令和5年度せせらぎ公園駐車場の普通車利用台数は過去最多の146,092台でした。（みだしま・寺尾臨時駐車場も含めると計203,978台）。コロナウイルスが昨年5月に感染症法の分類で5類に移行される1～2か月前より月間利用台数が増え始め、7月までの利用台数は歴代の月間1位・2位を記録しました。夏の期間に入込は少し落ち着いたものの、冬シーズンの12月～3月はすべてで歴代の月間1位を記録しました。主に春節や春休み等要因はいろいろありますが、『冬の白川郷』『雪の白川郷』のイメージの強さがわかる結果になったのではないのでしょうか。

二輪車についても、せせらぎ駐車場で過去最多の7,655台の入込がありました。初夏の時期（5月～7月）にかけてはそれぞれ月間歴代2位を記録し、さらにその後も8月～10月にかけて月平均約1,100台の利用があり、二輪車が走るのに適した季節に多くお越しいただきました。

一方、大型車は20,304台で前年度より大幅に増えたものの、過去の入込平均と比較すると約8割の入込でした。特に夏シーズン（7月～9月）は例年1日平均で34.3台入るものの、今年度は29.3台と下回る結果となりました。しかし今年度3月は月間歴代最多の1,884台を記録しており、次年度当初からの入込の増加が期待できる様相となっています。

コロナ禍も明け、荻町集落も大変賑やかさが戻ってきました。次年度も賑やかになることを期待します。

過去5年間とH30・R5年度の月別平均比較



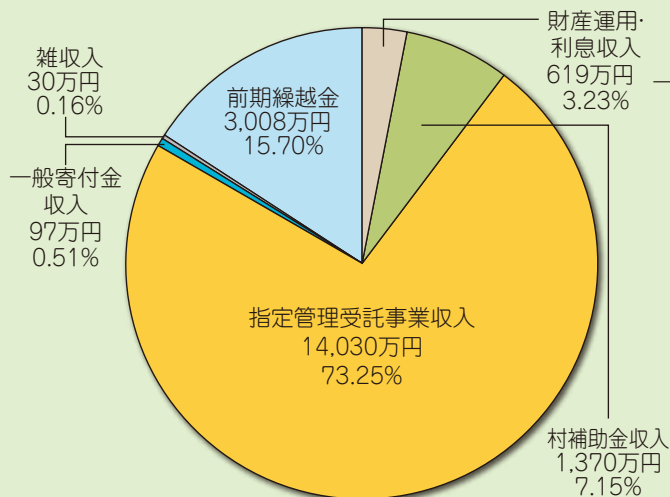
…一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団…

令和5年度

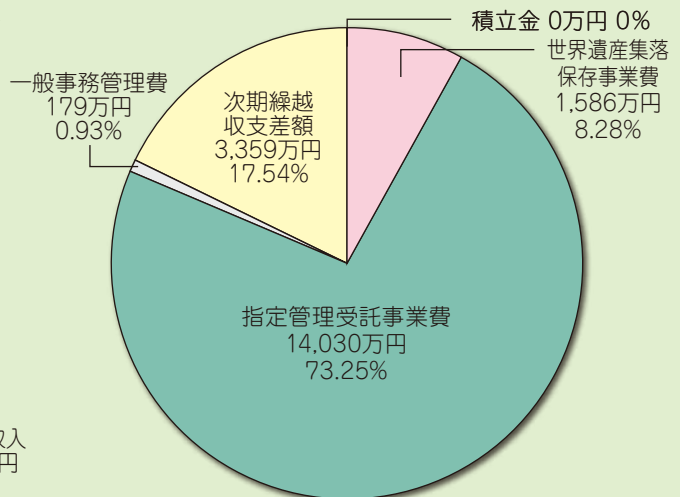
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、令和5年度の会計状況をお伝えします。

歳入 1億9,154万円



歳出 1億9,154万円



令和5年度の主な事業

1. 修理事業	4,218,000円
差し茅	4棟 491,000円
伝統的建造物修理	0円
棟茅葺替	88/108棟 3,727,000円
トタン屋根葺替	0円
2. 修景事業	2,324,264円
修景協力費助成	3棟 1,907,000円
トタン屋根葺替	0円
ビニールシート指定色奨励事業	17枚 236,440円
一般建築物茅屋根補修	棟茅4棟 140,000円
オダレ助成	6枚 40,824円
3. 地域活性化事業	3,386,944円
自治保存会活動費助成	1,000,000円
自治保存会育成事業	高山市 326,415円
人材育成事業	49,630円
茅の自給率向上施策と調査研究	2,010,899円
4. 水田復旧事業	2,770,914円
復旧農地の維持管理・活用	水田42.5a、畑0.7a 2,770,914円

合 計 12,700,122円

財 源 内 訳

村補助金	12,700,000円
基金運用利息	122円

合 計 12,700,122円

財団は世界遺産集落を保全し、後世に残していくための公益事業を行っており、主な経費は村営駐車場の受託費で賄われています。設立当初よりせせらぎ公園駐車場と付随する総合案内所の管理運営業務を行い、引き続き、みだしま農村公園駐車場・寺尾臨時駐車場を含め繁盛期の渋滞緩和にも努めています。

駐車場で徴収された駐車料金は村に収納され、駐車場や施設の維持管理費に当てられ、一部は管理受託費の財源となります。また、世界遺産地区の修理・修景助成、地域振興策等にも使われ、事業計画に応じ村から補助金として入ります。

令和5年度のせせらぎ・みだしま・寺尾駐車場の総収入は、前年（17,360万円）比約2割増の20,822万円となりました。普通車入込数は20万台を超え過去最高を記録し、バス等大型車入込についてもピーク時比較の約8割まで回復しています。受託事業費として14,030万円、集落整備事業及び運営費補助金として1,370万円を村からの収入とし事業を行いました。

基金は約7億330万円、令和5年度は619万円の財産運用利息収入となり、財団の貴重な財源として集落保存事業を中心に活用されています。

財団が保持している基金の現在額(令和6年3月)

基本財産	302,361,000円
特定資産	400,943,373円
合 計	703,304,373円

荻町集落の景観をまもるために…

水田復旧事業

平成16年度より荻町集落の景観を守ることを目的に、休耕田への田植えやさつまいも畑づくりを行っています。今年度も田植え後に水田協力隊の皆さんに間差しをしてもらったり、白川郷学園の児童の皆さんと一緒に畑作りを行ったりしました。

白川郷学園2年生とのさつまいもづくり

今年度は学園の児童16名の皆さんが取り組みました。

6/15…苗植え

毎年このことではありますが、まず学園の皆さんに写真を使って、なぜここにさつまいもを植えるのかを学んでもらいました。休耕田になっているときの写真、この事業を始めてからの写真を見比べて、さつまいもの緑の景色がどれだけ展望台から見たときにきれに見えるかを感じてもらいました。

そしていよいよ苗を植えます。今回初めての試みとして紫芋と紅はるかの2種類のさつまいも苗を植えました。児童の皆さんが『大きく育つのが楽しみだなあ』とワクワクしながら植えている姿を見て、景観が良くなることはもちろんおいしいさつまいもが採れることを願いました。曇り空でしたが、皆さんで協力し合計100本の苗を植えることができました。

最後に一人1回、苗に水をやり、作業を終えました。そのあと児童の皆さんは歩いて展望台に上がり、実際に苗を植えた場所を確認していました。

10/12…さつまいも掘り

秋晴れの気持ちいい朝、待ちに待ったさつまいも掘りを行いました。うきうきした様子で畑までやってきた児童の皆さんは1列になり1人ずつ順番にまずは紫芋を引き抜いていきました。周りの土を掘り分け、少しずつさつまいもが見えてくると嬉しそうに『見えてきた！』『これは大きいよ！』と喜んでいました。児童の皆さんはどんなさつまいもが採れるのかドキドキしつつも職員と一緒に丁寧に掘り進めていきました。そしてさつまいもが掘れると嬉しそうに『採れたよ！』『たくさんあるし大きい！』と報告してくれました。紫芋を抜き終わるといったん休憩し、残りの紅はるかを収穫していきました。『こんなにも大きいさつまいもが採れたよ。すごいでしょ！』『見てみて！こんなかわいいお芋がたくさん採れた！』と大喜びで掘っていく児童の皆さん。大小さまざまな芋がありましたが、全部で手賃6個山盛りに掘ることができました。

その後、さつまいもツルでリースを作りました。それぞれが思い思いに作っていき、ネックレスや指輪、腕輪、冠にしてみたり、葉の部分をまとめてブーケも作ったりと個性豊かなリースができました。終始ニコニコと楽しく作業することができました。





苗植えからいもほりまで児童の皆さんだけではなく、職員もとても楽しみながら景観を保全することができました。ありがとうございました！

後日、掘ったさつまいもで作ったスイートポテトとお礼の手紙をいただきました。

職員一同とってもおいしくいただきました！ありがとうございました。

水田協力隊の皆さん今年もありがとうございます！



今年も財団の田作りにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました！

今年も村内だけではなく村外の方も含め計6名の方にお手伝いいただきました。

財団が耕作している田んぼは機械が入らないところが多く手植えで大変ですが、毎年皆さんに頑張ってもらっているおかげでとても助かっています。これからもご協力よろしくお願いします！

田植え・稲刈りをお手伝いしたい方👏大募集中！！
ぜひ一緒にやりましょう！

次世代の遺産保存につながる人づくり活動

人材育成事業

集落の伝統や景観を次の世代へつなぐため、平成16年度より白川郷学園の合掌造りの仕組みについての学習のサポートを、平成26年度より田畑づくりに関する肥料や苗・種の助成を行っています。

白川郷学園5年生の米作りへの助成

今年度はうるち米の稲苗代や肥料代への助成を行いました。今回は職員が見学やお手伝いに行くことはなかったのですが、保護者の方へ稲作のアドバイスや稲刈りの際のコツをお伝えする等、陰ながらお力添えをさせていただきました。



白川郷学園畑への野菜・花苗助成

今年度はとうもろこし、ピーマン、ミニトマト、なす、あさがおなどの苗代を助成しました。



いつまでも美しい景観と伝統を未来へつなぐため、
これからも担い手づくり活動を積極的に行います！



ありがとうございます

寄附金ご協力者一覧 (敬称略)

皆さまからいただきましたご厚意に心より御礼申し上げます。

ご協力いただきました皆さまをご紹介します。
ありがとうございました。

令和5年度

岐阜県 河合依子
岐阜県 株式会社林工務店
代表取締役 林 俊宏
岐阜県 株式会社三輪酒造
代表取締役 三輪 研二
東京都 南里幸貴
兵庫県 西本喜久子
滋賀県 株式会社文教スタジオ

竹筒募金

白川郷の湯
トヨタ白川郷自然学校
民宿 十右エ門
民宿 志みづ
民宿 久松
民宿 ふるさと
民宿 きどや
民宿 幸エ門
民宿 与四郎
民宿 利兵衛
民宿 一茶
民宿 山本屋

民宿 孫右エ門
民宿 源作
民宿 よきち
民宿 伊三郎
民宿 大田屋
お食事処 忠兵衛
基太の庄
白楽
今昔
心花洞
文化喫茶 郷愁
喫茶 狩人
花水木
結の郷
いっぶくちな
手打ちそば処乃むら
しらおぎ
ぜん

味処ゆきんこ
与ぜ
白水園
いろり
喫茶さとう
お食事処 天守閣
どっころしょ
あらい
ます園文助
柊
合掌
そば脇本
盛善
恵びす屋
おいしんぼ
かたりべ
白川郷ぷりんの家
おけさ

合掌庵
佐藤民芸品店
今藤商店
めめんこ
こびき屋
古太神
道の駅白川郷
国重文 和田家
ふる郷 長瀬家
神田家
県重文 明善寺
焰仁美術館
合掌造り民家園
白川村役場
(一社) 白川郷観光協会
寺尾駐車場
であいの館

現在店舗に合掌基金募金箱の設置がなく、設置希望の方や、募金箱の破損などありましたら当財団までご連絡ください。



世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では、合掌造り集落の保存とその集落内の住民の暮らしを守るため、合掌家屋の修理や集落の修景などの景観保全に関わるさまざまな課題に対応し事業展開しています。

これらの事業は、基本財産から生じる運用益を活用して行っていますが、その運用益だけでは必要事業費にはるかに及ばない現状です。そのため、岐阜県の助成を得ながら緊縮した村会計から捻出

して対応しています。今後、当財団に要請される事業が、社会情勢の変化にともなってますます多様化し、一層責任が増大していくものと予想されます。

当財団が、このような課題にできるだけ的確に対処できる体制を整えることが、世界遺産合掌集落の保存に欠かせません。この趣旨にご賛同いただき、皆様の温かいご支援、ご協力をお願いします。

●振替による場合

基金に対する
ご寄付お送り先
及び資料請求先

★【口座名義】世界遺産白川郷保存基金
・郵便振替口座 00810-6-51954
・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

●現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
(一財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113
★インターネットでも受け付けています。
<https://www.vill.shirakawa.lg.jp/zaidan/>

今回の巻頭文は、令和2年度に完成し3年度に納品された茅刈機を、実際の茅場で利用している黒木さんにインタビューという形で掲載しました。これまで寄稿形式ばかりでしたので、インタビュー(当財団の職員)との会話の中で黒木さんの茅刈というものについて、そして村の茅の自給、将来の展望について熱く語っていただき、茅についてお互いがより深く考える良い機会となりました。黒木さんの熱い思いがこもった巻頭文をぜひご覧ください。

今年度5月には、当財団の理事長が交替しました。さらに令和6年度より職員、駐車場の嘱託職員として新たに計3名を迎え入れます。次年度も『世界遺産白川郷』にかかわるすべての方々のために、より一層目の前にある課題解決に向けて職員一同まい進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

理事長が替わりました



いわもと かずや
理事長：岩本 一也

一言

昨年5月に理事長に就任しました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。